

## 成績の悪い君の勉強の仕方

育英セミナー学院長 蟹井 潔

- 1、授業を聞かない
- 2、復習をしない
- 3、試験勉強は試験範囲の発表がある1週間前からしかやらない

まず1だが、授業をしっかり聞かなければわからない。どうせ聞いてもわからないと思っているだろうが、わかるようになる。そして、授業中に大事なところを覚える。大事なところは、教える側は、声を大きく張り上げ、何回も繰り返し、書くときは、色を変えたり、下線を引いたり、四角で囲む。それを覚えればいいだけだ。覚えるといっても口に出すわけにはいかないから、前に書いてあるのをにらんで頭の中で10回ほど繰り返す。50分の授業で、せいぜい半分ほどだ。そうすれば、理解力・集中力・暗記力・根気力が身につく、外から見ればなんと頭がいいんだらうということになる。

2だが、いつも言うように一昨日の晩御飯さえ覚えてないのに、1週間前はおろか1ヵ月半も前にやったことはさらさら覚えてはいない。試験は平均すると1ヵ月半に1回ある。人間の頭は、何もしなければ忘れるようにできている。「覚えておく」には「覚える」という作業をしなくてはならない。しかも、「覚えやすく」「引き出しやすい」ようにしなければならない。それには、習っているとき覚えるのが一番効率がいい。だから授業中に覚えるのだ。授業中に覚えきれなかったところは、家へ帰ってすぐ復習だ。

3だが、試験科目が11科目あるのに、1週間前から調べても間に合わないのはわかるだろう。それも授業も聞かず、復習もしない。とても無理なことをやろうとして失敗しているんだ君たちは。公立中学の中間考査は5教科だが、理屈は同じこと。このことに早く気づいて、実行に移し、継続・工夫・努力するかによって、君の人生は劇的に変わる。

成績のいい生徒は、授業をしっかり聞き、毎時間授業中に覚える習慣を身につけ、その上で、家で覚えきれなかったところをすぐ復習。しかも、試験調べは最低でも2週間前からやっている。そりゃあ、いい成績をとるわなあー。

さあ、原因と結果がわかったなら、後はやるだけだ！！ここでやらないと君の人生は変わらない。

## きっと いつかは

アスファルトの ほんの小さな 隙間から  
顔出し 芽をふく 雑草の  
強く 雄々しく 逞しい  
生きる精神（こころ）を 俺も持ちたい

今が どんなに つらくとも  
雪の日ばかり 続かない  
真面目に 生きれば  
きっと いつかは 報われる・・・  
やがて 芽をふく 季節（とき）が来る

夢灯り どんなに遠くで かすんでいても  
明日を信じて 生きるのさ  
木枯らし吹いて 夢が舞っても  
きっと いつかは 春の陽が・・・  
冬が過ぎれば 春が来る